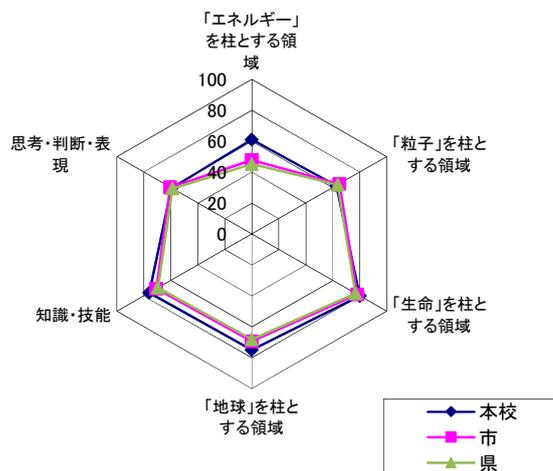


宇都宮市立東小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	61.1	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	62.7	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	80.0	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	75.0	69.5	68.1
観点	知識・技能	76.0	70.8	69.5
	思考・判断・表現	59.4	60.5	58.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は61.1%であり、県の平均を15.8ポイント上回っている。</p> <p>○電流の向きや大きさについての設問では、県の平均、市の平均ともに大きく上回っている。</p>	<p>・仮説を立てて、実験や観察を行ったり、学んだことを活用して身近なおもちゃや道具の仕組みについて考えたりする機会を意図的に設定し、学習内容の定着に努める。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は、62.7%と県の平均とほぼ同程度である。</p> <p>○「金属を温めたり、冷やしたりした時の体積の変化について考える」設問では、10.6ポイント、「夏に線路のレールにつなぎ目がない理由を金属の体積の変化に着目して答える」設問では、7.4ポイント、「赤温インクの色の変わり方を答える」設問では、16.6ポイント県の平均を上回った。</p> <p>●「水が凍る事象を調べるために行った実験の結果を予想する」設問では、県の平均を大きく下回り30%だった。</p>	<p>・仮説をしっかりと立て、児童が興味をもって行うことができた実験の内容についての理解度はとても高い。今後も実験を行う前に「根拠をはっきりと、自分なりの考えを持つこと」を大切に授業を展開していく。また、考察において「結果」と「考え」を区別させるとともに、記述でまとめる活動を多く取り入れるようにする。また、その中で身近な事象との関連も含めて考える活動を取り入れていく。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は、80%と県の平均を上回った。</p> <p>○「春や夏のころの気温や動物の様子を選ぶ」設問では、県の平均を大きく上回る93.3パーセント、「腕を曲げたときの筋肉の様子を考える」設問では、県の平均を大きく上回る83.3%だった。</p> <p>●「季節の変化とかえるの様子を関係づけて考える」設問では、県の平均を大きく下回り70%だった。</p>	<p>・理科の授業だけでなく、日常生活や他教科と関連させ、自然に触れる体験を多く取り入れて、観察等の機会を増やしたり、学習内容に関連する身近な自然現象についても意図的に考える機会を増やし、事象が起こる原因についての理解を深めたりする。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は、75%と県の平均を上回った。</p> <p>○月の動きを考える設問では全て県の平均を上回ったが、中でも「方位磁針の正しい使い方を考える」設問では、73.3%だった。また、「水の流れと地面の傾きについて考える」設問では、66.7%と県の平均を大きく上回った。</p> <p>●「晴れの日の気温の変化を表すグラフを選びその理由を考える」設問では、県の平均をやや下回り、60%だった。</p>	<p>・月や星の動き、流れる水のはたらきについては今後も、他教科との関連も図りながら子供たちの興味・関心が持続していくように学習を進めていく。また、季節が変わった時などにも意図的に子供たちに投げかけるなどして理解がより深まっていくようにする。</p>